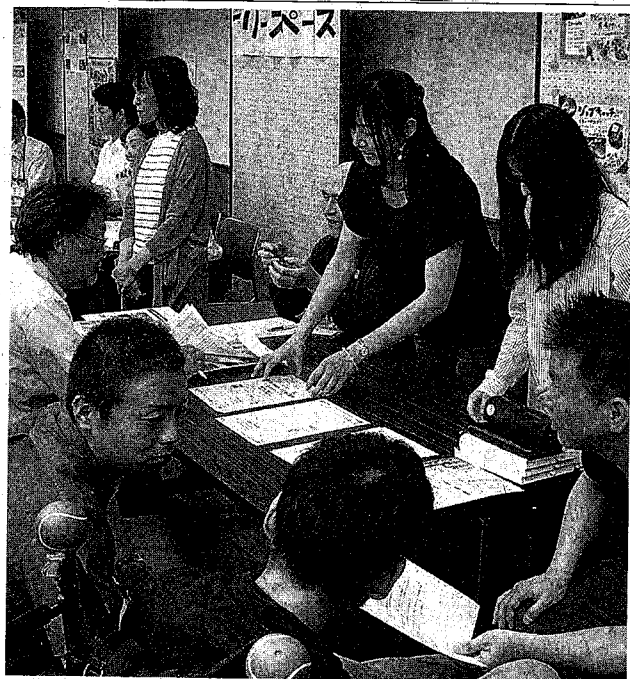


RCC貧困子ども支援の輪

全国で子どもの貧困が深刻化していることを受け、企業経営者らで構成する県内のロータリークラブ(RCC)で、子どもの支援に向けた取り組みが広がっている。

(生田ちひろ)

「大津ロータリークラブ」会員ら75人が各ブースを訪(大津市)は5月、子どもにね、「何に困っていますか」食事を無料や低価格で提供する「子ども食堂」を展開するNPO法人や、児童養護施設 このイベントを機に新たな体を招き、交流会を実施した。 日本生命保険滋賀支社(同)を営む社会福祉法人など8団 交流が芽生えている。



各ブースで担当者から活動内容の説明を聞く参加者ら(5月、大津市で)＝大津ロータリークラブ提供

交流会で実情学ぶ

7月、草津市内で開かれたコンサートに児童養護施設の児童ら約10人を招待。8月には同社で開催した木工教室にも招いた。損保ジャパン日本興亜滋賀支店(同)も、全社員出資の基金から10万円を、大津市内で子ども食堂を実施する団体に寄付した。

同ロータリーは11月にも県内の支援団体や、支援に関わる県社会福祉協議会の担当者らに子どもの貧困を巡る現状や課題を尋ね、できる支援を検討する。

低所得の家庭で暮らす18歳未満の子どもは貧困率は、厚生労働省によると2015年は13・9%。7人に1人の割合になる。

交流会を企画した村田健二会員は「子どもたちが健やかに成長できないと、社会で活躍できる力が身につかず、地域経済は発展できない」と危機感を募らせる。

「近江八幡ロータリークラブ」(近江八幡市)では20

コンサート招待 ■ 食事提供団体に寄付

15年度から、近江八幡市内で子ども食堂を開く団体の活動を支えようと資金援助を続ける。また、「栗東ロータリークラブ」(栗東市)は3月、生活に困っている人たちに無償で食品を届けている「フードバンク滋賀」の講演会を実施し、会員約40人が参加。8月には県、市の社会福祉協議会

「『お弁当を作るのが大変』という働くお母さんの声に応えることができた」と話した。

力ある給食」として、県産食材の25%の使用を目指すという。

市によると、市立中全18校のうち、現在は2校のみが給食を実施している。市は保護者の要望などを受け、子育て支援の一環として全中学校での給食実施を15年に決定。当初、18年度中の実現を目指していたが、用地取得などが遅れていた。

記者会見した越直美市長は「『お弁当を作るのが大変』という働くお母さんの声に応えることができた」と話した。

全市立中で給食実施

大津市 20年から

大津市は子育て支援の一環として、2020年1月から全市立中学校で給食を実施する。

市南東部の小学校給食を担う共同調理場を、同市大將軍から栗林町に移転新築し、中学校分も含め1日約1万7000食をまかなう。給食調理会社「メフオス」(東京都)などで作る「フージャースグループ」が20年1月～34年12月末までの運営費なども含めて約149億円で落札した。「魅